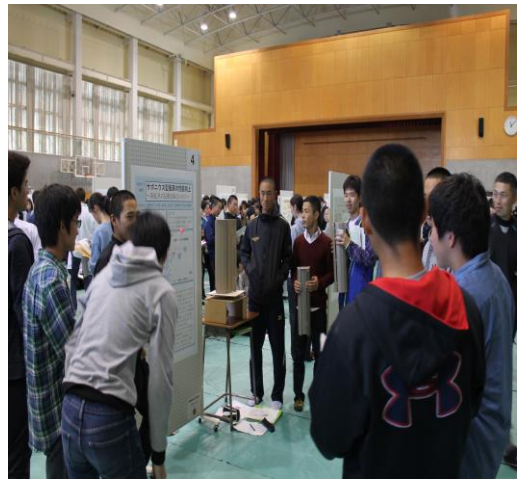
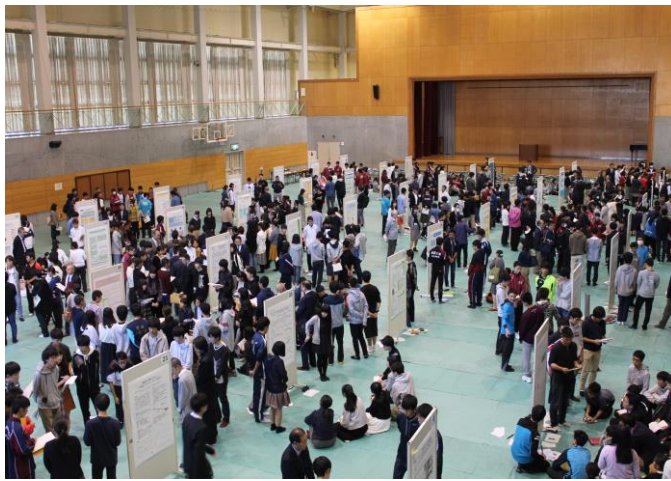


第一回学校公開学術研究ポスター発表会開催

10月26日（金）に、「平成30年度第一回学校公開学術研究ポスター発表会」が開催された。14ゼミ全81班のポスターが体育館に並べられ、各班が今までの研究成果を発表した。さらに、さくらサイエンスプランの一環として台湾の2つの高校の代表者が来て、同様に課題研究のポスター発表を行った。そして、学校公開ということで、保護者の方々や他校の先生方も発表を聴きに来てくださった。72回生にとって最後のポスター発表会はどのような様子であったのだろうか。



タイムテーブル

10:50	開会式
11:10	仙台第一高校 奇数班 大同高級中学 第1, 2班 南投高級中学 第1班 発表7分+質疑応答5分 ×2回
11:40	仙台第一高校 偶数班 大同高級中学 第3班 南投高級中学 第2, 3班 上記同様
12:10	閉会式

様子

9月に一度「ゼミ毎ポスター発表会」を行ったこともあり、各班とも前回より完成度の高いポスター発表ができていた。その一方で、声が小さい人や台本を手に持って発表している人もおり、発表に対する準備の浅さも伺えた。

また、所属ゼミ以外のゼミの発表を聴くことは初めてだったため、皆、興味津々に聴いていた。質疑応答では、72回生・73回生問わず質問が飛び交い続け、時間内に捌ききれない班が続出した。

さらに、ポスターも説明も英語であるにも関わらず、台湾の高校生の発表を聴きに行く者も多く、活発な国際交流が行われていたと思う。

感想

72回生

- ・練習では原稿なしですらすらと読めていた部分も、人前になると緊張で度忘れしてしまい、上手く伝えることが出来なかった。
- ・台湾の生徒は、英語力だけでなく、プレゼン能力も高かった。短い劇から始まりジェスチャーを多用するなど、格が違った。

- ・自分達の生物実習の時とは比べものにならないレベルの内容ばかりだったが、中身だけでなく、プレゼン能力や姿勢も参考になった。
- ・声が小さかったり、原稿を見ながら発表したりしている人がいた。ポスターも文字が多くて見づらい班が多数。私達に言っていることを72回生が出来ていなくて残念。

73回生

さくらサイエンスプラン1026実施

昨年同様、第一回学校公開にあわせて、台湾の国立南投高級中学と台北市立大同高級中学から計14名の生徒が来校した。14名は滞在期間中、本校の生徒の家にホームステイし、前述のポスター発表以外にも交流会や「一高科学の甲子園」などで交流を深めた。

○交流会

互いの学校紹介やゲームを用いた自己紹介などを行った。

○「一高科学の甲子園」

台湾の生徒と一高生が数人でグループを作り、科学的思考力を必要とする競技を行った。競技の内容は斜面を転がしてより遠くまで届く物体を作るというもので、グループ内で相談しながら取り組んだ。



感想

- ・英語で話して通じたとき、とても嬉しかった。
- ・学校の授業ではカバー出来ない英語力の差を台湾の生徒との間に感じた。

編集後記

学校公開の際、他校の先生に、生徒主体でレベルの高い研究が出来ることに対してお褒めの言葉を頂いた。しかし、私たちが十分に研究を進めてこられたのは、先生方や校外研修でお世話になった大学の先生や企業の方が、熱心に私たちに向き合ってくれたからだと思う。私たちは、今一度、研究に協力してきてくれた人たちに感謝するべきではないだろうか。(文責：清水)